

9 近代の短歌・短歌を読む

組	
番号	
氏名	

1

次の短歌を読んで、問いに答えなさい。

A みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる 斎藤茂吉

B のど赤き玄鳥つばくらめふたつ屋梁はりにみて足乳根たらちねの母は死にたまふなり 斎藤茂吉

C 小百合さく小草がなかに君まてば野末にほひて虹あらはれぬ 与謝野晶子

D ふるさとの訛なつかし
停車場の人ごみの中に
そを聴きにゆく 石川啄木

E 白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ 若山牧水

F 幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく 若山牧水

① Aの短歌の「母のいのちを一目見ん」とは、どんな意味ですか。適切なものを次から一つ選び、記号に○を書きなさい。

- ア 母が大切にしてきたものを一目見ておきたい。
- イ 母が生きている間に、あと一回しか会えない。
- ウ 母が元気なうちに、もう一度会いたかった。
- エ 母が生きているうちに、一目でも会いたい。

② Bの短歌の「母は死にたまふなり」とありますが、死んでいく母と対照的に描かれているものを、歌の中から書き出さない。

③ Cの短歌の「にほひて」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

④ Cの短歌の「にほひて」の言葉の意味を書きなさい。

⑤ Dの短歌に「そを聴きにゆく」とありますが、どこに行くのですか。歌の中の言葉で書きなさい。

⑥ Dの短歌に「そを聴きにゆく」とありますが、何を聴きに行くのですか。歌の中の言葉で書きなさい。

⑦ Eの歌に込められた作者の心情として、適切なものを次から一つ選び、記号を書きなさい。

ア 何ものにもとらわれず、自由に生きていることへの喜び。

イ 自然と一体化することによって得られる安心感。

ウ 空の青さや海の青さにも劣らないほどの深い悲しみ。

エ どんなものにも染まることなく生きるものへの共感。

⑧ Fの歌には「旅ゆく」とありますが、どこを目指して「旅ゆく」のだと思いますか。